

第 33 回都市環境緑化推進研究会

基本テーマ：生物多様性と自然再生

～都市の緑に求められる自然再生とその技術～

「生物の多様性に関する条約」は、「生物多様性の保全」及び「その持続可能な利用」、そして「遺伝資源から得られる利益の公正かつ衡平な配分」の国際枠組みを調整し、これを締結するものです。

この条約への参加をふまえて、関係閣僚会議において閣議決定し策定されたものが「生物多様性国家戦略」です。

この戦略の第四次版である「生物多様性国家戦略 2010」において、人と自然との良いバランスが確保され、人と自然が共生することを通して恵み豊かな生物多様性を育む「いきものにぎわいの国づくり」が提唱されています。そして、これを達成するためには、それぞれの地域で地に足のついた活動が重要であり、地方公共団体や民間企業をはじめとする様々な主体や多くの国民による協働が必要であるとされています。

この「いきものにぎわいの国づくり」を具体化していくにあたって、「自然の再生」が重要な課題となる地域が「里地里山・田園地域」と「都市地域」です。

「自然再生」とは、自然環境が損なわれた地域において、有効な手段を用いて自然環境を修復・再生し、これを保全・育成することです。

里地里山・田園地域は、人々が農業を中心として自然をコントロールしてきた地域です。都市地域は、市街地が中心となる地域であり、緑地も人工的な緑が主体となっているが、都市により斜面地や水辺地に多くの二次的自然が残されています。これらの地域の自然は、人の適切な維持管理により成り立っていた自然であり、近年の社会環境の変化により人の手が入らなくなり、衰弱しつつある生態系を生物多様性の観点から健全なものに蘇らせ、その自然の多様性の「質」を再生・向上・維持することが必要かつ緊急な課題です。

本研究会においては、これらの背景をふまえて本年度の研究テーマを「生物多様性と自然再生」とするとともに、特に里地里山・田園地域と都市地域の「都市の緑に求められる自然再生とその技術」について、学識経験者の方々から各視点からの提案をいただくとともに、参加者の方々も含めた意見交換を行うものです。

第33回都市環境緑化推進研究会プログラム

日時：平成22年10月28日(木) 13:00～17:00

場所：石垣記念ホール（東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル9階）

主催：財団法人 日本緑化センター

12:00～受付開始

13:00～13:10（10分） 開会挨拶

財団法人 日本緑化センター 専務理事 前田 博

13:10～13:50（40分） 基調講演：生物多様性の推進における自然再生の役割と課題

東京都市大学 環境情報学部 環境情報学科 教授 涌井 史郎

13:55～16:55（180分） パネルディスカッション

<途中で10分休憩>

【コーディネーター】

涌井 史郎

【パネリスト】

養父 志乃夫（和歌山大学 システム工学部 環境システム学科教授）

椰野 良明（国土交通省 緑地環境室長）

内藤 恒平（横浜市 環境創造局 みどりアップ推進担当理事）

高梨 雅明（社団法人 日本造園建設業協会 常任顧問）

16:55～17:00（5分） 閉会挨拶

財団法人 日本緑化センター 緑化計画部 部長 山田 和司